

平成 29 年度第 1 回茂原市子ども・子育て審議会 会議録

日時	平成 29 年 7 月 27 日 (木) 13 : 30 ~ 15 : 01
会場	茂原市役所 市民室
出席委員	中山会長、濱田副会長、秋山委員、渡邊委員、佐野委員、平井委員、北田委員、鬼島委員、三島委員、石井委員、小泉委員
関係課 事務局	豊田教育部長、久我教育部次長兼教育総務課長、学校教育課 平井主幹 鶴岡福祉部長、鈴木福祉部次長兼社会福祉課長、中村課長、片岡課長補佐、佐久間子育て家庭相談室長、北田支援係長、山西副主査
傍聴者	2 人

配布資料

- ・資料 1 茂原市子ども・子育て支援事業計画（平成 28 年度実績について）
- ・資料 1 参考 公立保育所・幼稚園整備計画の概要（平成 28 年 8 月策定）
- ・資料 2 茂原市子ども・子育て支援事業計画分野別施策事業一覧
- ・資料 3 議事 茂原市「子ども・子育て支援事業計画」における中間年の見直しについて

会議次第

- 1 開 会
- 2 委 嘱
- 3 委員紹介
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 あいさつ
- 6 議 事
 - (1) 平成 28 年度茂原市子ども・子育て支援事業計画による進捗状況について
 - (2) 茂原市子ども・子育て支援事業計画中間年の見直しについて
- 7 その他
- 8 閉会

会議要旨

(会長、副会長の選出)

委員より自薦、他薦がないため事務局より提案
会長に中山清志委員、副会長に濱田利子委員を選出
委員より了解を得る

(会長あいさつ)

この会議は、茂原市にとっても、茂原市で子育てしているお母さんお父さんはもちろんのこと茂原市に住んでいる皆さんにとって、とても大事な会議の中身になるであろうと考えております。任期は 2 年ということですが、この会議の中でお集まりの皆さんが何を考えていらっしゃるのか、どうすることが茂原市にとって良い事なのか悪い事なのか話し合っより良い茂原市に

前進できるように力を振り絞っていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

(副会長あいさつ)

皆様のご意見等々を活かしてよりよい会にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

6 議 事

(1) 平成 28 年度茂原市子ども・子育て支援事業計画による進捗状況について

<事務局から、資料 1 から資料 2 に基づき説明>

委員

資料 1 の第 1 節の 2 提供体制の確保の内容及びその実施時期で、「保育士の不足が生じ、平成 29 年 4 月時点で 70 人の待機児童が発生した」とあります。

また、「早期解消に向け、保育士の確保に努めます」となっていますが具体的にはどのように努めていますか。

事務局

保育士には正規職員と臨時職員がおりまして、臨時保育士については通年募集しております。

正規職員の募集については、本年 7 月 15 日号の広報に保育士採用の記事を掲載しましたが、7 名程度の募集をしているところです。本年度で定年退職する人数より多く確保していく予定です。

また、臨時保育士については年間 10 名前後の入れ替わりがある状況ですので、出来るだけ確保していくように努めております。

会長

他にご意見、ご質問はあるでしょうか。かなり精査された資料でございまして事業の重み、一文字の重みが沢山色々なところに出ていると思いますがいかがでしょうか。

- 質疑終了 -

(2) 茂原市子ども・子育て支援事業計画中間年の見直しについて

<事務局から資料 3 に基づき説明>

会長

中間年の見直しということで 3 つの観点からご説明がありました。

背景については平成 27 年度に「子ども・子育て支援事業計画」がスタートしたわけでありまして、そして 13 事業の重点施策を定め、量の見込みに対する確保策、そしてそれぞれの事業の目標を定めたという背景がございまして、国は各市町村が定めた子ども・子育て支援計画の達成状況の点検及び評価をする中で、本茂原市においても中間年における各事業の量の見込みの見

直しが求められています。

委員

具体的に今年度に見直しを皆さんでテーマに沿って検討していければと思います。

委員

子どもが減っているというところで、保育士不足だということがどうなのかと疑問に思いました。その辺をどのようにお考えなのかと思います。

事務局

保育士不足ということですが、子どもの数自体については20年前に比べて半分位になっている状況です。それにあわせて保育所の保育士や幼稚園の教諭を配置してきました。

しかし、平成27年度の新制度開始に伴い、入所要件が緩和され、申込みが増えてきました。それにあわせ職員の配置が出来ていないというのが今の状況ということです。そういう意味で保育士不足ということです。

委員

具体的には次回以降とのことですが、子どもが減って、でも保育士がというのは保育所、幼稚園だけでなく小学校・中学校でも子どもに対応させていることなので保育士、教師の確保も大変だと思っている。そこも踏まえ深く考えていきたいと思っています。

委員

保育士の不足のこともあるが、今待機児童は時間が経てば解決するような事なのでしょうか。

事務局

待機児童は、4月1日現在で70名おり、7月1日では69名となっています。これは1名を受け入れて1減したということではなく、その間に20名位の申込みや退所などで人数が動いています。

例年だとこれから10月位にかけて途中入所の申込みが増えていく状況にあります。

具体的に、茂原市はどのように解消しようと考えているのかといいますと、平成30年度にアップル幼稚園が「幼稚園型認定こども園」に移行することで42名分の保育枠が確保されることになっています。若干、在園児の幼稚園枠から保育枠へ移行する方もいらっしゃると思いますが、1つの解決策になるのではないかとということと、新規で保育士の正職員採用や、内部の職員配置を工夫することで若干の保育枠を生み出すことができると考えています。

更に、新治保育所を来年3月に閉所しますので、統合するメリットを踏まえ、短期的には解消できるのではないかと考えています。

長期的には、平成32年度に認定こども園を整備いたしますので、施設のスケールメリットを活かしながら対応していきたいと考えています。

子どもの総数は減ってきていますから、今、一時的に申込者数が増えてきているけれども、国では平成 32 年位がピークではないかとみています。女性の更なる社会進出などで、保育希望者は増えていく可能性はあるかとは思いますが、適切に対応していきたいと考えております。

委員

資料 3 の内閣府より中間年の見直しの考え方と方向性が示されたということですが、このポイントというのは実績値を比較して検証ということですが内容的にどのようなことがあるのでしょうか。

事務局

国から示された内容は、基本的な考え方といたしまして、「見込量」として計画した数字とその数字が「実績値」としてどう動いたか、あるいは新たなニーズが出てきているのか、そういったものを総合的に判断して残りの 2 年（平成 30 年度と 31 年度）の計画に反映していきましょうという考え方です。

どこまで乖離があるかという具体的な根拠としては、「見込量」と「実績値」の乖離が 10 パーセント以上生じた場合、それは見直しの必要があるというような考え方でございます。国からはこういった指針をもって見直しなさいという指示がでております。

委員

先ほど、平成 32 年度に子どもがピークになるのではないかという話があったと思うが、このまま子どもが減り続けると次世代を担っていく人がいなくなってしまう。

むしろ、子どもや子育て世代にやさしい街づくりを売りとして、茂原市周辺の地域から茂原市に住みたいと言ってもらえる様な施策を打ち出したほうが良いのではと思うのですが、その辺はどうでしょうか。

事務局

茂原市といたしましても人口減少対策、子育てというのは大きな重要施策の 1 つとして捉えておりまして、具体的に人口を増やす施策としては働く場所の確保ということで、今、新治工業団地の整備を進めております、そういったことで就労を確保するという、子育てをしやすい環境、まさにこの計画を推進することで人口増につなげていきたいと考えているところであります。

委員

保健師をしております。子どもが減っていくのは私どもの事業でも一緒ですが、子どもは減っているけれど逆に手をかけなくてはならない子どもさんが非常に増えてきていると感じております。

核家族化や社会構造の変化でお母さん方の負担、ストレスなど非常に高いものになってきておりますし、やはり社会の中で子どもを育てるということで預かってもらえる場の確保、それが保育所であり保育士の活躍というのが非常に大切な事だと思っております。

単に人数が減ってきているから保育士もというのはちょっとそうではないのかなと私自身は思っております。子どもが減ってくるということは保育士を志す人も今後減ってくるということで、私

は保健師であり助産師ですが、実はこういう専門職も市町村間で奪い合いが始まっている状況です。

先ほど委員がおっしゃられた「茂原に住みたいと言ってもらえる人を増やす」ということも非常に大切なことだと思っております。茂原で保育士を試してみたいと言ってもらえる様な街づくりをすることが大切だと考えておりますし、どうしたらいい状況になっていくのかということを経後の2回の審議会の中で活発に議論していけたらなと考えております。

会長

平成27年度に茂原市で計画された「子ども・子育て支援事業計画」、この中で茂原市とはこんなことを確認しあっています。

「未来に輝くこどもたち みんなで育てるまち もばら」、この実現を目指そうということなのですが、そのためには待機児童などがなくなるように、担当保育士の数をきちんと確保できるように、おそらく茂原市だけの問題ではないと思われませんが、住みたい茂原市にするためにはそのようなことにも今まで以上に努力しなくてはいけないのだなということで小泉委員よりご指摘を受けました。

平成27年度にスタートしましたこの事業ですが、5年間のうちにまず一つまとめたということでやってきているのですが、あと2回審議会がありますのでどうか今日以上に活発なご意見の交換ができるようお願いしたいと思っております。

私自身も分からない事が色々あり、みなさんの意見を聞いてなるほどと感ずることばかりです。いずれにしても、この審議会の役割というのはとても重要な役割であろうと思うので敢えて申し上げたのでございます。

- 質疑終了 -

7 その他

事務局

今回の審議会の開催は8月24日(木)午後1時30分から、場所は市役所市民室を予定しています。第3回につきまして10月中旬に開催の予定をしておりますが、日程が決まり次第後連絡させていただきます。

また会議録につきましては、次回会議でご確認いただきまして市の公式ウェブサイトにて公開させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

15:01 終了

以上